

2024 年度（対象年度：2023） 自己点検・評価シート

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
503①	全学的視点を含んだ大学院改革の推進

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
・[第3期認証評価【改善課題】] 大学院修士・博士課程における定員未充足状態を改善することが求められる。【努力課題】
・2021 年度から開始された大学院奨学金制度について。今後、同制度による成果を点検・評価することが望まれる。【留意点】

<【参考】2020 年度 認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
・収容定員に対する在籍学生数比率について、法学研究科修士課程で0.38、経済学研究科修士課程で0.08、経営学研究科修士課程で0.17、同博士後期課程0.11、社会学研究科修士課程で0.40、理工学研究科博士後期課程で0.19、農学研究科修士課程で0.45、実践真宗学研究科修士課程で0.36 と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。【改善課題】

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
502	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 ①学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
502① 入学定員、収容定員に対する在籍学生数比率は、学部及び研究科の責任のもと管理している。 [学士課程] 学士課程での2022年度における全学部の平均値については、入学定員に対する入学者数の割合は「1.00」、

収容定員に対する在籍者数の割合は「1.01」であった [502 ア]。入学者数については、公募推薦入試及び一般入学試験実施後に志願者動向等を部局長会に報告しており、適切な入学者数の受入れに努めている。

[大学院修士・博士後期課程]

2023年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、修士課程において54%、博士後期課程においては44%となっており、依然として定員未充足の状態が続いている [502 イ]。

定員未充足状態の改善を含む抜本的な大学院改革の推進を図るべく、2017年度に全学教学政策会議のもとに設置された「大学院改革委員会」での検討を起点として、全学的な見地から、本学大学院（各研究科）のあり方を検討し、必要な諸改革の実施に向けた改革方策等を提示し、大学院充実策の検討をすすめてきた [502 ウ]。

大学院改革委員会において、①本学大学院の現状把握および分析等について②本学大学院のあり方や改革方策等について検討を行い、2018年度第7回全学教学政策会議（2019年3月22日開催）にて、「大学院改革に向けた検討について（報告）」について審議した [502 エ]。

2019年度以降は、大学院教学会議のもとに、大学院改革の推進のためのワーキンググループ（WG）を設置し [502 オ]、本WGで設定した各種検討課題を大学院教学会議で取りまとめ、全学教学政策会議においてその検討結果を報告し、大学院改革推進策を共有した [502 カ]。また、大学院奨学金制度の総括を実施するとともに、新たな大学院奨学金制度の在り方について検討を進めた。これにより、大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の必要性を認識しつつも、大学院生の研究活動への支援に重きを置いた、新たな大学院奨学金制度を設けることとなった [502 キ]。本制度運用開始後、毎年度大学院教学会議にて給付者の単位修得状況や研究活動内容の報告をおこなっており、成果の点検に繋げている。 [502 ク]。

2020年度以降は、研究科連携・研究所提供プログラムの開発（テーマ「環境」、「税務・税法」）、「キャリアパスの可視化」及び「留学生の募集活動及び学修環境の整備」について、大学院教学会議のもとに検討委員会やWGを設置し、関係部署と連携して報告を取りまとめ [502 ケ]、「キャリアパスの可視化」については、2021年度には各研究科にキャリア担当の教員を配置することとなった [502 コ]。

2021年度には、研究科連携・研究所提供プログラムの開発（テーマ「環境」、「税務・税法」）について、継続的に検討し、「税務・税法」プログラムについては、2023年度から「税法プログラム」として実施することとなった [502 サ]。

2022年度には、「大学院充実策検討委員会」を全学教学政策会議のもとに設置され、同委員会では、大学院充実のための教学系予算の活用方策について、検討を重ねた [502 シ]。2023年度には、「大学院教学充実費」の活用方策にかかわって、各研究科に対して実態・ニーズ調査を実施した。また、学生の受け入れにかかる全学課題について、これまでの部局長会・大学院教学会議での懇談を踏まえ、大学院教学会議および全学教学政策会議において、大学院政策の推進状況を報告するとともに、今後の推進方策について提案を行った。 [502 ス・セ]

以上のことから、学生の受け入れについて適切に取り組んでいると評価する。

長所・特色《箇条書き》 \*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの

課題事項《箇条書き》 \*伸長すべき点、改善すべき点

502① 全学的視点を含んだ大学院改革の推進

### 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み \*成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

502① [大学院修士・博士後期課程]

新設の「全学人件費枠（大学院政策枠）」による教員採用、「大学院教学充実費」制度活用に向けた実態・ニー

ズ調査を実施するとともに、大学院教学会議および全学教学政策会議において、大学院政策の推進状況の報告及び今後の推進方策についての提案を行った [502セ]。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
502①	全学的視点を含んだ大学院改革の推進
502①	大学院学生の受け入れにかかる全学課題の推進

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
502	ア	令和5年度学校法人実態調査（抜粋）
502	イ	修士課程・博士後期課程 収容定員充足状況 推移（2019年度～2023年度）
502	ウ	大学院改革委員会の設置について（提案）
502	エ	（2018年度）大学院改革に向けた検討について（報告）
502	オ	（2019年度）大学院改革の推進について（提案）
502	カ	（2019年度）大学院改革の推進について（報告）
502	キ	新たな大学院奨学金制度について（提案）
502	ク	大学院成績優秀者給付教学金・研究活動支援給付奨学金給付状況等報告 ※一部抜粋
502	ケ	2020年度における大学院改革の推進について（報告）
502	コ	大学院キャリア担当の選出について（提案）
502	サ	今後の大学院改革の推進について（報告）（2021年度第6回全学教学政策会議資料）
502	シ	大学院充実策検討委員会における検討結果（報告）（2022年度第4回全学教学政策会議資料）
502	ス	大学政策推進費における「大学院教学充実費」の活用方策の検討に向けた実態・ニーズ調査について（報告）（2023年度第10回大学院教学会議資料）
502	セ	大学院政策の推進および今後の推進方策について（提案）（2023年度第2回全学教学政策会議資料）

II. 評価結果

総評
502① 入学定員、収容定員に対する在籍学生数比率は、学部及び研究科の責任のもと管理している。学士課程は、入学定員・収容定員ともに適切な管理ができていると評価できる。他方、大学院修士課程・博士課程は、入学定員・収容定員ともに依然として定員未充足状態が続いている。当該年度（2023年度）において、大学院定員未充足問題に係る改善に向けての進捗がみられない。現在進行中の大学院改革の検討が抜本的な大学院教育の組織再編につながることを期待したい。
長所・特色《箇条書き》
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・ [第3期認証評価【改善課題】] 大学院修士・博士課程における定員未充足状態を改善することが求められる。【努力課題】